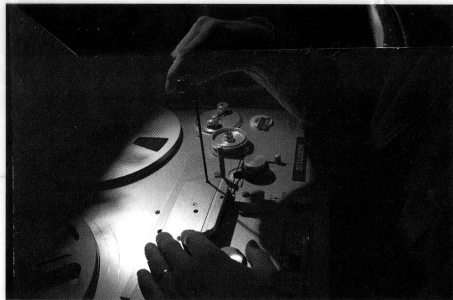
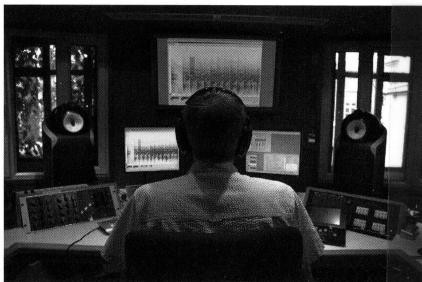




1 本 1 本のオリジナル・アナログテープに対して正確なアジマス調整を施す  
(再生機はスチューダー A80)



Cedar 社のソフトウェアを使い、微小なノイズを取り除く

Sadie Digital Audio Workstation を使ってのマスタリング作業

## EMI のカタログの中核をなす名録音の SACD のためのリマスタリングについて

EMI が誇るこれらの歴史的なレコーディングは、ロンドンのアビー・ロード・スタジオで 4 人のエンジニアによって、オリジナルのアナログ・マスターからハイブリッド盤 SACD のリリースのためにリマスタリングされました。サイモン・ギブソン、イアン・ジョーンズ、アンディ・ウォルター、アラン・ラムゼイという 4 人のエンジニアは、いずれも長年にわたって EMI だけでなく、他のレーベルのためのレコーディングにも携わり、マスターテープのアーカイヴにおけるリマスタリングにも豊富な経験をもつヴェテラン・エンジニアたちです。

これらの SACD のためのリマスタリング作業は、まずロンドンの EMI のアーカイヴに保管されている金属原盤やオリジナルテープを探し出し、それらを、それとは異なるソースや以前 CD 化する際につくられたデジタルマスターと比較することからはじまりました。その際に私たちがまず頼りにしたのは、それぞれのレコーディングを担当したエンジニアとプロデューサーが録音セッションについて詳細に書き残した記録ファイルで、それによって、なぜオリジナルマスターとは別のテープがワン・セット存在するのかといった理由も分かるのです。これらのレコーディングは 78 回転の SP レコードからモノラルとステレオのアナログテープまで多岐に渡り、録音年も 1930 年代から 1970 年代にまで及んでいます。そして、そのソースがフランスで制作された場合は、私たちはそれらのオリジナル・マスターテープをフランス EMI から取り寄せました。こうして集められたテープのコンディションは、幸いとても良い状態にあったので、私たちはそれら

を、再生特性等をきわめて慎重に調整した4分の1インチ・テープ用のスチューダーのA80で再生しました。

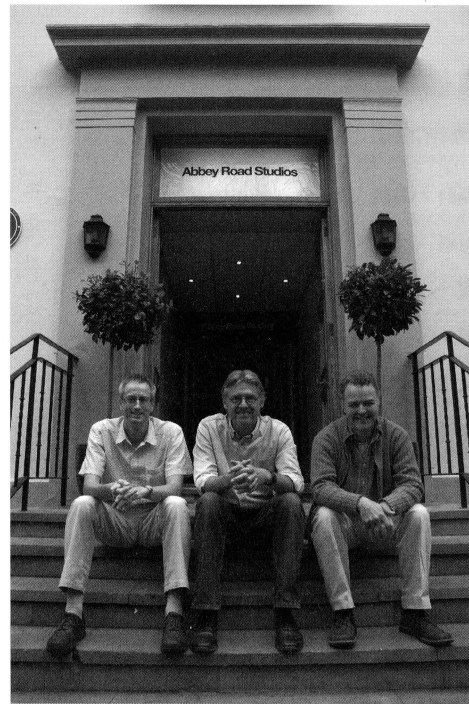
さらにSACDのためのリマスタリングに際しても、私たちが保有している最良の機材を使用して行われており、アナログマスターはまず、Prism社のADA-8コンバーターを介して96KHz/24ビットに変換され、それらがSadie社のDigital Audio Workstationに保存されます。そして、その際にクリック音やパチパチノイズ、テープヒスなどが鑑賞の大きな妨げになると判断した場合にのみ、Cedar社の音声復元テクノロジーを使用して、それらを取り除きました。また、SACDのカップリングと曲順に従った最終編集において、その方がベターだと判断した時には、曲間や楽章間にアンビエンスを加えて編集しています。

そして、音量レベル等を合わせる最終バージョンの調整は、EMI独自のテクノロジーであるTG12412とトーン・コントロール・ボックス12414というアナログ・イコライジングシステムによって行い、その他の機材やプロセスは一切使用していません。こうして製作されたリマスターがその目的に応じてハイブリッド盤のCDとSACDのためのDSDフォーマットに合わせてマスタリングされ、製造現場へと送られるわけです。

これらの偉大なレコーディングがSACDのような高精度なフォーマットでリリースされるのはこれが初めてであり、リスナーの方々には、これまでにない明晰で精細な音によってこれらのかけがえのない演奏を楽しんで頂けると確信しています。

サイモン・ギブソン、2011年11月

(訳：歌崎和彦)



左からサイモン・ギブソン、イアン・ジョーンズ、アンディ・ウォルター  
(アビー・ロード・スタジオ前にて)

## リスト

Franz LISZT

## 超絶技巧練習曲集 (全12 曲)

12 ÉTUDES D'EXÉCUTION TRANSCENDANTE

- |                                                               |        |
|---------------------------------------------------------------|--------|
| ① 第1 曲：前奏曲 ハ長調<br>No.1:Preludio in C major                    | 0'54"  |
| ② 第2 曲：イ短調<br>No.2:in A minor                                 | 2'04"  |
| ③ 第3 曲：風景 ヘ長調<br>No.3:Paysage in F major                      | 5'18"  |
| ④ 第4 曲：マゼッパ ニ短調<br>No.4:Mazeppa in D minor                    | 7'21"  |
| ⑤ 第5 曲：鬼火 変ロ長調<br>No.5:Feux follets in B flat major           | 4'02"  |
| ⑥ 第6 曲：幻影 ト短調<br>No.6:Vision in G minor                       | 4'51"  |
| ⑦ 第7 曲：英雄 変ホ長調<br>No.7:Eroica in E flat major                 | 5'03"  |
| ⑧ 第8 曲：狩り ハ短調<br>No.8:Wilde Jagd in C minor                   | 5'34"  |
| ⑨ 第9 曲：回想 変イ長調<br>No.9:Ricordanza in A flat major             | 9'04"  |
| ⑩ 第10 曲：ヘ短調<br>No.10:in F minor                               | 5'11"  |
| ⑪ 第11 曲：夕べの調べ 変ニ長調<br>No.11:Harmonies Du Soir in D flat major | 10'14" |
| ⑫ 第12 曲：雪かき 変ロ長調<br>No.12:Chasse-neige in B flat minor        | 4'38"  |

## ⑬ メフィスト・ワルツ 第1 番 (村の居酒屋での踊り)

MEPHISTO VALSE NO.1 S.514: DER TANZ IN DER DORFSCHENKE

11'21"

## ⑭ 2 つの演奏会用練習曲より 〈小人の踊り〉

LA RONDE DES LUTINS (ETUDE DE CONCERT N°2)

2'50"

## ジョルジ・シフラ (ピアノ)

GYÖRGY CZIFFRA, Piano

Recorded: 26, 27 November 1957 (Études)

19 December 1957 (Mephisto Valse No.1)

25, 27 February, 30 May & 26 June 1958 (La ronde des lutins), Salle Wagram, Paris

Producer: Norbert Gamsohn

Balance Engineer: Thomas Gallia

Remastering Engineer: Simon Gibson

## 言語を絶する超絶技巧と格調高い抒情性

### ～ジョルジ・シフラの《超絶技巧練習曲集》

リストのピアノ作品は、リストが生きた時代には作曲者以外は弾けないとまで言われたほどの超難曲だったわけだが、ヴィルトゥオーゾ演奏家が珍しくなくなっている現代にあって、私たちは演奏家の超絶技巧には滅多に驚かなくなっている。第一線で活躍する演奏家はそもそも高度な演奏技術が最低限でも必要とされるからだが、それでもジョルジ・シフラのピアノ演奏には誰もが度肝を抜かれるのではないだろうか。それもシフラはピアノ演奏の基礎レッスンを受けていないというのだから2度ビックリである。シフラの運指は常識では計れない奏法だそうで、初来日の演奏に接したある評論家が、シフラの指使いのあまりの無茶苦茶加減に〈野放しの子供のよう〉と書いている。それは彼がブダペストのリスト音楽院で専門教育を受ける以前は、ほとんど独学で演奏技術を身につけてきたからなのだが（子供の頃はサーカス団で客のリクエストに応じてポピュラー音楽の素材を使って即興演奏をしたとかいうエピソードが伝えられている）、そんなシフラの超絶技巧はまさしく破格と言っていいのではないか。しかし超絶技巧などという表面的で薄っぺらな軽業がシフラのピアノの魅力であるなら、

彼の演奏を記録したレコードは時の試練に到底耐えることはできなかったのだし、人々の記憶からも消えてしまっているはずなのだ。〈野放しの子供のよう〉だと評した評論家が同じところに、〈シフラほど自由に生き生きとリストの作品の核心にある躍動的な調子のよさを表現できる人はまれである〉と書いているが、シフラのピアノ演奏に噴き出すような情熱を誰もが強く感じるのではないだろうか。

いささか無機的に始まるシフラのピアノを聴いて眉をひそめる聴き手もあろうかと思うが、しかしそのゴージャスなダイナミズムは大きな魅力だ。第2曲の急き立てられるような焦燥の中にあふれ出る悲愴感からして、聴き手の胸を締めつけるではないか。落ち着いた静けさからゆったりとした盛り上がりを見せ、再び閑寂の中に沈んでいく第3曲〈風景〉に漂う叙情のしっとりとした艶っぽさにグッとくる聴き手は多いはずだ。続く〈マゼッパ〉の、時に無機的な響きにまで達する破裂するようなダイナミズムには舌を巻くばかりだし、第5曲〈鬼火〉の軽やかな響きが持つ迫力や凄みにも驚嘆の念を禁じ得ない。シフラのピアノは尻上がりに聴き手の胸を躍らせる。第6曲〈幻影〉の暗く陰鬱な凄み、〈英雄〉の孤独感、〈狩り〉のダイナミズムはすさまじいと形容する他はないが、それ以上に、悲劇的な色にすっかり染められ

## 言語を絶する超絶技巧と格調高い抒情性

### ～ジョルジ・シフラの《超絶技巧練習曲集》

リストのピアノ作品は、リストが生きた時代には作曲者以外は弾けないとまで言われたほどの超難曲だったわけだが、ヴィルトゥオーゾ演奏家が珍しくなくなっている現代にあって、私たちは演奏家の超絶技巧には減多に驚かなくなっている。第一線で活躍する演奏家はそもそも高度な演奏技術が最低限でも必要とされるからだが、それでもジョルジ・シフラのピアノ演奏には誰もが度肝を抜かれるのではないだろうか。それもシフラはピアノ演奏の基礎レッスンを受けていないというのだから2度ビックリである。シフラの運指は常識では計れない奏法だそうで、初来日の演奏に接したある評論家が、シフラの指使いのあまりの無茶苦茶加減に〈野放しの子供のよう〉と書いている。それは彼がブダペストのリスト音楽院で専門教育を受ける以前は、ほとんど独学で演奏技術を身につけてきたからなのだが（子供の頃はサーカス団で客のリクエストに応じてポピュラー音楽の素材を使って即興演奏をしたとかいうエピソードが伝えられている）、そんなシフラの超絶技巧はまさしく破格と言っていいのではないか。しかし超絶技巧などという表面的で薄っぺらな軽業がシフラのピアノの魅力であるなら、

彼の演奏を記録したレコードは時の試練に到底耐えることはできなかったのだし、人々の記憶からも消えてしまっているはずなのだ。〈野放しの子供のよう〉だと評した評論家が同じところに、〈シフラほど自由に生き生きとリストの作品の核心にある躍動的な調子のよさを表現できる人はまれである〉と書いているが、シフラのピアノ演奏に噴き出すような情熱を誰もが強く感じるのではないだろうか。

いささか無機的に始まるシフラのピアノを聴いて眉をひそめる聴き手もあろうかと思うが、しかしそのゴージャスなダイナミズムは大きな魅力だ。第2曲の急き立てられるような焦燥の中にあふれ出る悲愴感からして、聴き手の胸を締めつけるではないか。落ち着いた静けさからゆったりとした盛り上がりを見せ、再び閑寂の中に沈んでいく第3曲〈風景〉に漂う叙情のしっとりとした艶っぽさにグッとくる聴き手は多いはずだ。続く〈マゼッパ〉の、時に無機的な響きにまで達する破裂するようなダイナミズムには舌を巻くばかりだし、第5曲〈鬼火〉の軽やかな響きが持つ迫力や凄みにも驚嘆の念を禁じ得ない。シフラのピアノは尻上がりに聴き手の胸を躍らせる。第6曲〈幻影〉の暗く陰鬱な凄み、〈英雄〉の孤独感、〈狩り〉のダイナミズムはすさまじいと形容する他はないが、それ以上に、悲劇的な色にすっかり染められ

てしまった激しい衝動に僕はグッと感じ入ってしまうのだ。そして第9曲〈回想〉のなんという高い格調だろうか。タイトルのない第10番へ短調も爆発的な情熱が聴き手の胸を熱くする。〈夕べの調べ〉の高い気品と豊かな抒情性にはすべての聴き手が胸を強く震わせるに違いない。終曲の〈雪かき〉にいたっては激しく燃える情念の炎、聴き手を追い立て煽るような衝動が聴き手を悶えさせずにいない。

彼のピアノ演奏に彼の前半生の投影を読むのはいささか気が引けるが、しかしシフラのはじけるようなパッションの意味づけを彼がなめた辛酸の解放にあると考えたとしても、あながち的外れにはならないと思う。彼はリスト音楽院での勉強中に第2次世界大戦のために徴兵され、捕虜にまでなるが、戦後はさらに悲惨な体験が待っていた。当時のソ連軍支配のハンガリーを脱出しようとして失敗し、50～53年は獄中で囚人としての生活を余儀なくされたのである。政治的な信念の違いによって囚人にされたことへの憤りと屈辱をシフラは終生忘れなかったという。表現の自由に対する衝動と執念は、そもそも自由な国に住んで、それを取り上げられた経験のない私たちには想像できないほど猛烈なものがあったであろう。

このディスクに収められたリストの《超絶技巧練習曲集》には確か

にリストの生命が、永遠たるリストの生命が躍動しているとは思わないか？ 孤高のリスト弾き、絶頂期の記録……。はじけるようなパッションから暗く深く沈む絶望に至る表現のダイナミズムに、僕はシフラのアーティストとしての一途な心を聴くのだ。

今回それがSACDで登場した。そのフォーマットの優位性は素晴らしいが、それ以上にオリジナル・マスターからの的確なリマスタリングに拍手を送りたい。それもEMIの本拠アビー・ロードのクラシック・スタッフにより行われたことが嬉しい。以前のシリーズのようにCDフォーマットを考慮した聴きやすさを重点にしたものではなく、オリジナル録音にあくまでも忠実な再現により、シフラのピアノ奏法、音色などが鮮明に浮かび上がってくる。これにより彼への評価もまた今まで以上に正当になされるだろうことを期待している。

### リスト：超絶技巧練習曲集（全12曲）

フランツ・リストは7歳の頃から父の手ほどきでピアノのレッスンを始めている。瞬く間に上達した少年フランツは、1822年、11歳の頃、家族と共に移住したウィーンでチェルニーにピアノを、サリエリに作曲を学んでいる。驚くべきことにこの年の暮れに最初の演奏会を開い

て大成功を収めたと伝えられているのだ。翌23年に家族はパリに移住。リストはパリの社交界でも大成功を収めた。さらにフランス、イギリス各地でもセンセーションを巻き起こすような成功を収めている。

26年、リスト15歳のときに《超絶技巧練習曲集》S139の最初の形である《12の課題の練習曲》S136を作曲。リストの作曲家としてのキャリアがここに始まったのである。

その後、リストはベルリオーズ、パガニーニ、ショパンらに会い、彼らから大きな影響を受けた。特にショパンとの親交は、リストのロマンティックな作風をより豊かで詩的にすることに作用したと思われる。また、同じ頃、ダゲール伯爵夫人との恋が始まっている。夫人との恋は長くは続かなかったが、その間ブランディース、コージマの姉妹、一人息子のダニエルという3人の子供をもうけた。

37年、リストは夫人とイタリアに赴き、《24の大練習曲集》S137を書いた。この作品はS136の《12の課題の練習曲》の大幅な改訂版であり、《24の〜》とはなっているが、実際に作曲されたのは12曲のみである。そしてこの《24の大練習曲集》の12曲が51年の《超絶技巧練習曲集》S139の12曲へと発展するのである。その間、リストはヨーロッパ各地で絶賛を博し、コンサート・ピアニストとしての絶頂期を

迎えていた。また、ダゲール伯爵夫人との関係は破局を迎え、ザイン＝ヴィットゲンシュタイン侯爵夫人との関係が始まっている。この新しい恋は、リストがピアニストから指揮者へシフトする後押しをすることになった。侯爵夫人はピアニストとして各地を旅する生活から、ひとところに腰を落ち着けて作曲に集中するように勧めたのである。リストはワイマールに居を定め、同地の宮廷楽長に就任した。リストの主要な作品はこのワイマールの楽長時代に生み出されたのであり、《12の課題の練習曲》や《24の大練習曲集》を大きく発展させた《超絶技巧練習曲集》S139もこの時期に書かれたのである。作曲と指揮活動に専念したリストは自作品の演奏はもちろん、多くの作品の上演、演奏にも尽力した。その中にはワーグナーの《タンホイザー》や《ローエングリン》、シューマンの《ゲノヴェーヴァ》や《マンフレッド》などが含まれていたのである。

### メフィスト・ワルツ 第1番（村の居酒屋の踊り）～《レーナウのファウストによる2つのエピソード》より第2曲）

リストはゲーテの《ファウスト》に非常に大きな感銘を受けて《ファウスト交響曲》を作曲しているが、ハンガリーの詩人ニコラウス・レー

ナウの《ファウスト》にも靈感を受けて、1860～61年に《2つのエピソード》を作曲した。第2曲の〈村の居酒屋の踊り〉は特に有名で、2手ピアノ、4手ピアノの編曲がある。メフィストフェレスが弾く陶酔的なヴァイオリンに合わせて農民たちが踊るというシーンで、《メフィスト・ワルツ第1番》と呼ばれることが多い（1880年に《メフィスト・ワルツ第2番》が作曲されている）。

## 2つの演奏会用練習曲より〈小人の踊り〉

1862～63年にローマで作曲された。第1曲〈森のささやき〉とともに、リストらしい超絶技巧の中に円熟した詩情の漂う佳品である。

## ジョルジ・シフラ

1921年ハンガリー生まれ。病と貧困の生活苦のなかでピアノを始めたのが6歳の頃だったが、まともな楽譜もなく、基礎的な運指の教育も受けていない。その後、リスト音楽院で学び、デビューするが、第2次大戦への従軍で片耳の聴覚を失い、戦後は亡命に失敗して数年間の強制収容所生活を余儀なくされた。56年のハンガリー動乱に乗じて国外脱出。その後は西側で精力的に活動した。94年1月、肺癌のためパリの病院で亡くなった。

(松沢 憲)

〈取り扱い上のご注意〉●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。

〈保管上のご注意〉●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。